

第58回県中学校総合体育大会は15・18日、県内12市町村で17競技が行われた。胆江勢ではバレーボール男子で金ヶ崎が初優勝を果たし、女子は小山が初の栄冠。ソフトテニス団体は前沢男子が初優勝に輝いた。男子個人は前沢3年の菅原佑輔・本間峻誠組が制覇した。胆江会場となったバドミントンの男子団体は、前沢が2年ぶり7回目の頂点。体操男子個人総合は菅原大地(水沢南2年)が連覇を達成した。競泳は斉藤優斗(東水沢)が100、200メートル背泳ぎでV。剣道男子個人では菊池優秀(金ヶ崎)が3位、男子団体で前沢が8強入りした。陸上の男子共通四種競技は古館幸太(水沢南)が頂点。軟式野球の水沢南は準々決勝で敗退した。

東北大会は7月下旬から各地でスタート。胆江地区では卓球競技(8月5-7日、水沢総合体育館)が行われる。

県中総体

金ヶ崎男子、小山女子が初V

最後の大会、リベンジ果たす

バレーボール

▽男子

矢中北2-0水沢南
仙北2-0大迫
栗石2-0渋民
金ヶ崎2-0花巻

▽準決勝
矢中北2-0仙北
金ヶ崎2-0栗石

▽決勝
金ヶ崎2-0矢中北
※優秀選手賞 遠藤秀哉、仲村駆(金ヶ崎)

▽準々決勝
栗石2-0大船渡
金ヶ崎2-0厨川
九戸2-0花巻北
小山2-0崎山

▽準決勝
栗石2-1金ヶ崎

▽準々決勝
小山2-0九戸
▽東北大会第3代表
決定戦
金ヶ崎2-1九戸
※優秀選手賞 渡辺光風、小野寺ひかり(小山)、千枝華恋(金ヶ崎)

部員不足のハンディを乗り越え、小山がついに県の頂点に立った。王者栗石の前に県新人戦、県選抜大会とあと一歩のところまで涙を飲んできた選手たち。フルセットで逆転優勝を決めた瞬間、コートで喜びを爆発させた。

昨年度まで小山・若柳の合同チーム。4月から若柳は廃部。「何とかこのメンバーで全国まで」。若柳の3人が小山に転校することで、単独チームとしての挑戦が再スタートした。

試合は栗石のペース。第1セットは23-25で栗石。第2セットも相手が先にマッチポイント。観客席の悲鳴にも似た大声援の中、小山の逆転劇が始まった。

渡辺光風主将(3年)のレフト攻撃、高さのある小野寺

小山女子 全員バレーで頂点

ひかり(3年)のスパイク、強力なサーブで追いつくと28-26で逆転。第3セットも栗石の上和野絵里香・麻里奈(3年)のレフトからのスパイクをしのぎ25-21。コート上に歓喜の輪が広がった。

「頭は冷静に、心は強く」がチームの合言葉。試合でもピンチの場面はお互いに声を掛け合い、最後まであきらめなかったことが勝利につながった。渡辺主将は「ライバルの栗石に最後の大会で勝ててうれしい」と満面の笑み。困難を乗り越えつつかんだ勝利の大きさを噛み締める。

選手の多くは小学校時代からの同級生ポ少メンバー。「もっとフロックを強化して全国大会に行きたい」と渡辺主将。昔からの仲間たちと一緒に、新たな目標に挑む。



女子優勝の小山。観客席に笑顔で手を振る選手たち